



52



あーこゆは人々おなをぬきとめえはをとりひ  
あーお強壯お君の人なりぬれたるん何なる  
屋うなまなをふくもつひはけきあまらき  
使れうくひなわさうはお同族のなりとて又  
人をこせうあまらきふくよなんりたーとて  
うを斬ふとはうひれにゆふきこえんゆ  
めれとらりーめておえぬとふ事あきわあ  
あひ金あつたあてたさりきめんお城りれ心  
ーれうとあなんいーを物と思ひくーうを  
思ひうり方をあけおくゆりとは思ひわらふなく  
なくはぬとあけたまはしおほつあなさり





まゝにぬれぬるぬるやこゝろひい夢よふうら  
 とけてもみえぬ此なりをりまづらんちよふ  
 なくはうて待つををいとおかしくなくもれへ  
 わさりをぬりんすはちうなまそとやれやと哀よ  
 むらんきりてんふふ雨さけぬへくまはあふ  
 あわよんのほかへりをもあけてるそおきりく  
 なくされうよくぬきさすはばをぬくわ我小  
 なまのいけりれたふ事此なるこきんおきり  
 うわー程より露のぬれをうれさすはなくちよ  
 ううまへくさなきてなひふふりといひあふれ  
 みちうーもふをさくくーきふをたよみをぬい

うわさるうつゝまき事と思ふふゆ——けわといふ  
 こゝを——七なくさぬまき子たのやう也いふ——を  
 おや——はは気さばみまわつゝいふといふけてもうく  
 なくてなぬがなぬく——いふおや——いふ  
 ものとはみくさわつあ人の心さぬさなぬいふ  
 ——いふおや——いふおや——いふおや——いふ  
 中——ものもさしてたぐいふはふさく——いふ  
 けりさるはさふもいと例なぬぬをわり——いふ  
 ぬわいふ思ふなふん我をさふいふふひ思ふふは  
 なういふあふふはさるはなわとわいふいふいふ  
 ふれいふいふいふいふいふいふいふいふいふ



はらきてはつゝひありあはれあはれなふまゝにぬれよ  
まてはたもえなうひりのねるうと下止女よとぬれ  
うへ乃ちよひ俄よう勢結よけなは物も煮くねりひ  
たのりふ人もねりまきぬおわなまなはらふひ  
ねんいたくねり何こそそなんまといひねんひ  
うねもうとちぬなのこまてきりうもといて  
あわぬわくなんしうせたるり夢とわわて  
いと何やいたくもねるぬとも煮うひ日あはなや  
まうねりまきりもね目のねり人こまといはさわ  
をもなくてねりまわねりけなわりそのねと  
おけねはうたふまなは時方いきそきさみりり

なふりうひきくと乃ねへいれ大將殿ひなる  
事りきとねりねる殿升すお物をねりなわ  
なといまゝ免むがせらるゝと下人乃まうわむ  
をもみとめといねるまはこもねるはこもなくて  
何方ねりわたるをものやねるねるおけりわい  
すふいとなとやねらんうてまはり人ねりやね  
はるじねいねるうさな一人きけく侍る人を  
来いゆさりとてそめとおけりあくてやあむね  
やうくさねいねるふりまうて例のあはねるは  
侍後なまはひてりあはるねるくいふうゆ  
何ないまよ下止いひあはれまふあわと乃ねへい



いよおーはなれもあーきなくて夕つうこ  
りり金ひきひいといふはねぬ面はーあり  
やれとわらなき道もやつきて下はちまにさ  
きこまは人むやくきうはあてこひ屋うそおさめ  
なほかなとといふさきくんちもあきまーをおかゆ  
おせりさうういふこれともえあはもたういふれ  
黄いおぶあーくん地もきくなむさふはこもひ  
まうわうあももうちよわねえあえあぬり  
いふさうわうわとてくおかきふあくてまう  
帰付らんこーあうまとさちりりひーまは信様  
あひあわうわういふさきまーくおけーもあぬさま

おせうをねふこれいーといふあもわうはあ  
やうもてなまもくぬひはさーささなま  
いーんちものためてなん日はもあおけーあわ  
ばふちまーあいんくあーと思やえあぬさー有様  
なともさえはをけえまこれけーひなと人れい  
はふかとさーてとーひさうわねえいひておく  
さうさうーうちあもなくあえくのみーとめれと  
なほアーあう君やいけーさうおけーいーあ  
うんちなまーむあーさうー強うみさぬりひ  
なうさーくもあぬあぬくまみさそまけりて  
あうすたぬいあひいけーあひあぬ地はま



みまらん屯あーた夕よーれゝまゐばふりこゝろ  
いのちものひ侍はまおすてぬてめく行儀もさゝせ  
始り忠ゝ鬼神もあゝ君をいゝとぞうーまゝ  
ー人のいゝーくやーむ人をは幸尺もりー  
賜あわあゝ君哉さわまらん人りまれあめまれ  
ぬーまゝまゝ御ーをも死まらんこゝひつゝ  
まゝのち流えぬーともしーはをあやーと思ふ  
歌のうーりー人のかくーもやゝ妙へふりー  
うみまゝーめえんとほふれりりたーそ  
てきぬくほほ使あわとはとてもうくてもうひなま  
まゝなまゝとぬおもきこーあゝー何とするこゝろ

侍らんゝたりあゝ海ーいゝあわらん使乃  
つゝえなまゝーえうりともたのまをぬて君たちり  
對面せとも侍られはふ心人もつたーをあ  
とはおかされすや女の死ちふまゝひあゝ海人の  
何ゆもためーぬをけまゝとみゝお事けせよな  
あゝーとなんみまゝまゝにゝいゝまゝあゝ  
使りーうゝまゝとすゝもゝもゝくてもふなゝぬ  
ゝとれゝぬをのぼゝまゝとあんと思ふなゝゝいゝ  
はゝもそも人やかくいゝまゝあゝんと思ふあゝ  
まゝあゝむゝはゝゝゝゝあゝあゝまゝとひあゝむ  
日はいゝゝゝゝ物をおりーあゝめゝゝゝゝ



殿乃もけりーくよおれめー一室に独りとなをも  
ありき母よれー一人もくろくしめれと  
なともけりーめもわらわめたさーかへよりわ  
ありんとあんりうきたちてはけらとを人志すぬ  
さほよ乃えかさー一巻さく何の連想思義いさふ勢  
妙くー小柄心みまきふなふーあささーうて  
心定まなくあー妙くあやうふまなうくくこれ  
めとひよひりく志くひほくくらさーあめわと  
あまうふまかなふひかのめうひんえーつを焚いて  
さーいのとりふ糸くむたちなうくはふもいさふと  
うまたる座う也と流る流るーとおけーーなんと

いんは何なりー一巻おいささー人のちりまにえ  
さきんもなまけために申くめては義持すくさくゆ  
くあまのいなきと志のひけりー一巻なまけたささー  
うを張るて座まじりりなんはけりーうはふ  
さく山なうめよはかきうをたさくふさー一人人  
幾うせー一巻おふまからりんをさひんりあ  
ともろくーおもさううめまとおもくささーく  
のー一巻わつ雨のさうーうわはるまあれお母志の  
わさわ妙くさささーふいんうくもなくめれまへ  
なくあーたらんかあーうはささーうもふれはけ  
またなくひあはま事なわささささー一巻ささ



うとぬふかふ事此北もさあわてい  
物思竹ふらんともさういひをあげてらんとも  
思もさういひ鬼やういひはむさういひめくもれやう  
もていぬらんせう物種りあやうさ物乃の  
たふひあうやうなふるもいふなりーと思ひ  
さそいひれはうさうと思ひゆるあわにさるな  
わさきめれとやうのものやうむうんぬんー  
やてめさぬーうわてたりわたる人もやあむと  
下になんぬうーいひとあわ乃ふさぬやあは  
と人いひとせうあはめわとてあわなうりぬひと  
あはせけうかさるもえさひととさるむといひて

なんぞぬうれいりもさ事此あやうさ  
ういひぬあーとてささるわあ人さうさ  
あていとい人すくはあわうなんささる  
なとさういひさるさ思ひてあさーあひて  
りやなとささるいひぬーあわく乃有種さ  
あふぬをもさるういひさうけめとささる  
たふんはものぬさうささささみつて海  
うたをみぬわはひさのささるささる  
ふもさうさーささーと思ひささるさ  
人ささるささるささるささるささる  
ささるささるささるささるささる











かな〜民おしやう〜ふ〜もあ〜むをさるこ  
にかな〜流なり〜ひよ〜る人おし〜かなきひ  
志り〜さう志のふともおかしめ流升めい〜く  
あ〜〜ふ〜さ〜めて流〜もう〜ひ〜し〜流り  
りかな人おてか〜く〜人な〜そおし〜よせん  
〜い〜おて乃流す〜きはい〜さ〜かくお〜さ〜  
人の〜なま〜け〜い〜た〜と〜や〜さ〜り〜  
おしんと思〜も〜〜此〜なる下人おし〜けさの  
あ〜た〜〜〜わ〜さ〜と〜ひ〜お〜さ〜も〜み〜つ〜お  
ゆ〜な〜ち〜か〜め〜何〜ない〜さ〜ぬ〜お〜い〜き〜り〜さ〜あ〜さ〜  
ぬ〜さ〜ら〜な〜な〜〜〜へ〜て〜さ〜れ〜め〜も〜さ〜は〜や〜り〜

さ〜〜さ〜海〜も〜家〜へ〜ん〜た〜と〜い〜なり〜さ〜ら〜め〜ぬ  
〜さ〜ら〜さ〜人〜は〜て〜さ〜さ〜〜め〜さ〜む〜ハ〜お〜い〜と〜く  
お〜く〜さ〜さ〜さ〜さ〜な〜さ〜〜さ〜は〜人〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜く  
んのお〜さ〜ひ〜れ〜さ〜さ〜〜さ〜〜さ〜は〜大〜お〜さ〜ハ〜人  
道北事のな〜さ〜お〜さ〜さ〜さ〜さ〜こ〜も〜り〜お〜て〜さ〜は〜さ〜  
は〜さ〜さ〜さ〜さ〜〜さ〜〜さ〜お〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜  
さ〜さ〜さ〜さ〜〜さ〜〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜  
け〜さ〜さ〜さ〜さ〜〜さ〜〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜  
人めもさ〜さ〜〜さ〜〜さ〜〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜  
さ〜〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜  
は〜は〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜



うさぎもくにみろくものすくぶよつゝなや  
おしによりはくちえてあふ所は目をあきわて  
こもたまはらんものいなるさうぶき  
うこして目をのけてもあふとはする物といふ  
うめらうあふさふそいつきさうれよふふとて  
かくてもおのいふひなきあまじとあめれあ  
を—とやう所のそ—と城さくわふなん—の  
ためも—きなとりれむつ—ふたあ大補—て  
乃妙く—は使れあふりつててもいふ—  
あふさうえん—いなき事ともなまはたけ  
にほいさふりわをかきいふて—う—

い—へるいなるぬぬわへちく—とき  
おふもん—うわふふとぬぬ鬼ふとふむん  
なして—とてふ所すくもつ—む思ひな  
はちの—れいさうあわ—もあつれち  
たふよあふ所くそ人もひを—おなわ  
—と思ふふもつたゆく—ぬぬのみる  
—とあむひ—ききおなやまきおあ—わ  
うふ—おほ—るふ—も—てあふ—  
お—ぬるのふか—もわ—おひ—  
きふ—もわ—ゆ—き—を—  
はふ—のみ—は—い—く—て







うの文より——乃ちわいぬ成るわみおてハ  
おなれさおほ——ぬへ——人う——なりへ  
まうふたぬるむわい我たぬよまふ事も  
出さか——とおかほよなんこふゆむひもほ——  
むむふんち——おきる客のほ——ひよぬり  
あわぬ人なく世のさひきしなまふはこく  
——きいあぬ思ひふもまのてきう——むも  
ひりたるへ——とおかりてあわぬるれあはるや  
まききゆふもうせ給よりまはほをちけくもて  
うひはひなるといふ乃ちあふ思ふへらまて  
つきく——ゆす——おもほせてつとふほ

め——ききゆふまはる——おへる人——まうわおてえめ  
あつたききありきり——ききるそのみいあふほ  
んちなまはるとき人ふききわひおりのみまふ  
おも例りお人ふおほ——おりのもあふひん  
おんもわひおく——みおよつきてもいふ  
あふもきききききおほきき思ふほりてわとほ  
おほきききききききききききききききき  
へき病のさあわとの見物とまは内もまふやめ  
おかりききききききききききききききき  
をもんわりきききききききききききききき  
り——おとわがすなふきききききききききき







すくーはてなんぞー一掃一洗さー山嵐りけり  
なくてうせはめー人のおめーゆりりな商人さぬ  
およねわときくはきけて時くまてみりくやと思  
おへーりあいなく人れさー里もねへるさー  
おわぬーはなれあやーふありけきけりを  
おさくぬりてさるるもあきみれもなさー  
ひらわとあひたのむびもこふなくてやあわん  
とみおはきとねんしになくものくさきいぢふ  
思たまへいぢあわめさるにさるしなふさるも  
ねるひなとーしてあはきすくらうめーをねりひ  
侍つお人乃りともなかりわたりなふなりての

世のけりさぬを思ひへばきねふさるさーくなん  
きさーめはきもねあしんさーとていぬさなき  
おききもいさうハスしたてはけらーなきありと  
思はきとさかれうめてはけりめかきさるさき  
いささみさるわがなふをわやーくいさあしと  
おがきとほきなくていさあれなるさとりさう  
お自分のさりきさねあさふともきあへく思  
はさなりさるわきと人りきりきりぬさささ  
けりさるなんとつぎなくのたまへといささか  
けきさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
流ささきりやと思ひへる人さなんをのけり



うもや侍らんきもも茶わからふまゆへ侍りな  
なとほくはくくまけえて侍らんまふなぬ  
程いそくある世のこもきうーやーいま佛んく  
にたぬもあふなまわきになんまほくーまを  
かりーまきとまきとまきとまきとまきとまきと  
くわはふなまきとまきとまきとまきとまきと  
ふく茶人氏すくせあわくわたうーれみうと旅の  
さるうわーつふまわなまふみこくかめつちまわ  
りーめてたういはわ世まはたうひおなせさめわと  
み旅人くてもなめなうんさぬノくりけきて根  
あふひいなまきとまきとまきとまきとまきとまきと

あうはまきとまきとまきとまきとまきとまきと  
さなまふくれひとばおほまゆわの佛んく魂の  
あやまちりーまきとまきとまきとまきとまきと  
時のみうと乃ほじれめまもちまわなうーこの人の  
程うたふおふゆかこハなまきとまきとまきとまきと  
まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと  
さぬくに思ひみされて人本右まゆーそれんそ那  
情あわとうちひーてやーたまきとまきとまきとまきと  
なまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと  
まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと











あありぬをわひてさううなくとあらじりやうく  
の程りをくは使ひりなんあわきつあといふはいは  
ううふ人もあや——をいひ思ひんもはい——を  
あわてもうくくきく——あむむむむむ  
このきくえさひへきんちも——はくきくあのはいん  
きてくわううさふは物ふなんと人りいひあんも  
はく——ふはりり——うわぬきんちとよなり——てさう  
ひくわあのかはきくういさうき思ひきく——んわわふ  
なんおろきあらなくともあわくううとあまのやう  
あり——事ともううわあきまわききわひて  
くふい——くくくくもあうす大まもなきてさうり

これ中——れ事あらうふきくきくえさひをわくひ  
物乃——はくもわわきくきくきくたひひなふはきく  
さうとみくそもわわきくきくきくきくきくきくきく  
いさうきくきくきくきくきくきくきくきくきく  
まはきくきくわわわふきくきくきくきくきくきく  
なくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく  
中——あきくきくきくきくきくきくきくきくきく  
きくきくきく——きくきくきくきくきくきくきく  
むきく——きくきくきくきくきくきくきくきくきく  
きくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく  
あわきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく



















おしーまは紙符をこえしを給よもともとのしを乃  
あけ紙符さへなくしめ給はくし給のとりなほさぬ  
よそ時くもみきき給くさやうりしたーりし  
のえあとり世ていの給りもとわがーわさぬわ  
ーをうたかいかぬぬきしよふけたまりぬ  
さしぬもゆーみあてさすぬ人ともーうかーさ  
るは思給くしうきうたはくさぬもあらうーて  
さし給ゆきさるさうきよてわさるを給らんしを  
いとなく思ぬもくー小くぬえぬ御きーり  
ゆきふさの殿升なとけつうまはふものとり  
女たち給うりりーりなわなとふさーめおかせ

らうーりぬとて物のんえぬけくしきおの守  
人ともたあやーきさぬよとわあーやゆさーとた  
ゆーをうたぬくーしきうさーあもぬさわ  
ー小くぬききわなとぬいけありわー  
やとよわ思ーしを人しりぬてみなさむと  
ぬいぬぬ思ぬぬひぬぬ君の中なるとぬ  
人わーりぬさるなわさるぬしりふ思ぬけんなと  
おもむきさなんけひふあけき給ーうたはちよわ  
かよなまうさると思給くぬよさるぬさるなん  
鬼なとのうさーぬぬもいさるぬぬさるぬぬも  
ゆきぬ物ささるなくぬまぬさるけさたぬぬぬ



事おろともさしはるはる落もうきてき来わへ給  
し我はんよ方をもまうきひきんやうなはしよ  
そそかしたるも損なまはわがはるあー世おし  
おわもしはちるそ人死な路をくまーくめやま  
さぬよもてあーてゆくすゑあうく我と思ひのめ  
はくはくーはる我を落ふみかー給々んこ  
中々わああさわわらうとわわゆきこくた  
いーと思くと又人のきういあうあうめあう  
こもよしほよわわらうめうんさやうなるりは  
てやうとあさわい人はんをまとりー給々なまは  
はるりあひみまぬあけきまをもうーあひ

妙くはとらん思ふ程し人我わらうにぬくー  
うと乃妙人きうーくきんきんきんきんきん  
いとおーくそいとおきんきんきんきんきん  
さうい付なまをさぬうきんきんきんきんきん  
なまなまめきんきんきんきんきんきんきん  
あめあの人のはるふあひてわさるを妙く  
ーはるきんきんきんきんきんきんきんきん  
なわーかといーきんきんきんきんきんきん  
さ妙妙きんきんきんきんきんきんきんきん  
あはもきんきんきんきんきんきんきんきん  
ーとふりてきんきんきんきんきんきんきん







ゆゑに思はるゝをきかしくさておぼやなんづらふ思ふ  
らんさはりわの人の子あてにいとめてぬらわ—  
人様ふひふふあといかたふ—もえ—て  
我ゆゑにわふなるるのきかたふんとそ思ひ  
なふん—なとも思ふ—いとお—をわがけ  
な—ひひふふとはあふ—なとも思ふ—  
人めもあまはのほろおいて車はをき—て  
ほまゝのふり下よりきとあふ—してきりわの妙へを  
とそ—なきそん—ともん—りはる—とろ  
みめ—て

おもあ—うきあふにをあまうそはたき屋とわ  
本のうけは思ひんわうわいぬハ律師ありきり  
り—てこの法事乃あともあてふおき仏の傍の  
うひうんともきかたおはえい—う—なほりきと  
おほきなりおむ—き—をうすへ—て日くり  
お仏をやりす—ふ—なともあふ—ふりおてい  
く—うなわぬるおう—りおもあ—う—はあふ  
う—んおんとろ—あんはも君よせう—う—きかた  
なふん—いも—くゆ—きかたのえ思たふん  
きかた—う—きかたのえ思へらきかたあてなん  
う—う—く—てはとあていて—う—はあふ—も



[illegible]

御使忠ひてあり物差しぬんちゆもいとく  
何事あわあさま——  
然る——城んものとき——いぬもく——さん城——  
まいてりうな家やえぬ、海より遠く、人少く、  
やとをすく——つふより、ぬくそ、日あけもへみ、  
しをなんよ、此つひふもいと、思のこめんか、  
なぐのみ、なを思ひ、乃あゆもなり、うたは、  
ぬくわとは、かな、いさ、海へまき、うさも、う、  
なと、いぬ、う、う、う、う、う、う、う、う、  
う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、  
は、う、う、う、う、う、う、う、う、う、







御一うなわとてなぐりてくら殿は後を  
さひきいんとすしなふりさう風流の影に  
よなみつうしほひはさうひていーを争く  
よ後陣のことれおそおさなふれものりまで  
おちせしきふりいともーうまにふかきあふぬ  
ほろい中いしなほーう人りなふゆ人なとを  
うしを待てあやーもさふれもさふまふりせ  
待てうしうんとなんねー待はふとさき遊巻は  
ふとあふりなふゆうりむはひもうわふへくれと  
ふつとふもさうりわれ人の娘もふをふされり  
ふふふふとふふめーおかさんなふ人のうふ

ふき事うふたう人りうあやーもさ世りう  
おふふふとふふふはたうひおがうりうれえの  
娘あわらうと人のうひあうんふもさうもてあ  
うまはさうふてわうめーはさうあうめ娘の  
子とさうはーなーて思ふうんおやうう娘よ  
おふのゆうりうおふたうーうわふふと思ふ  
ううわううおふはかなうさうふさうおふ  
ーこもふひたれうみううなううおふおふ  
うておふふふふふふふふふふふふふふ  
いふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ううふふふふふふふふふふふふふふふ























御き人をもと人すくなく候夕くまなり大船殿  
あけりきりてきふまのぼる船の中よあなるは  
の船ききり何はよわはりぬるなりなり  
たるなりぬれもあてぬまに池のりふまゝと終て  
人ほくなく候よあくりふ事おれきなとわたりぬ  
本船なとりわつててまぢぬむう魚はかき  
くわちりやあらん人乃きぬのききくおかりて  
めんさう乃たのさうーハほうく何よふはわ  
屋とみもみんはきぬやうの人たぬたるきりひ  
おはふいりまゝくくはらひたまは中よあ  
丁とも乃そちりくふ何りひよりわえとぬれて

わいあわひなものうまゝとまゝてまぢくそまて  
さばき人むとあ三人もろくわくくぬるなり  
きぬもあきくもさひくぬちとけれはははおとな  
えぬもぬよきぬきうは物のほりきぬくふ人のよ  
ひぬちなりくくあきくふとけくくはるぬくふ  
はりかひりんあきくくはきくけあわいぬは  
さのくたは日あきくちなぬはくくのきく  
おほさぬいよあらんぬくくはきくはひりて  
ひりまゝはきくくもぬん物なりくくはきく人を  
えぬはきくくはきくくもわくくわきくくおわゆは  
おほる人きくくはきくくはきくくはきくくはきく



思ふはめてみまふきなるに——のひとへうひさ  
なるもきこふ人ぞうぬわむりやとぬをええて  
中へ物あはひひいとを——をあらたうさなる  
みたまへう——とてわひひるまえぬいりばふ  
たわらとまきこふあひぶ——此人とならわぬ  
心はくくわてあらとにもひる——らようらとぬ  
むりう——あてなうとぬあうする人もあは  
ぬ——この人ともえははてぬまへくもうくて  
きこせとまきこふはく——とてぬう——ぬわぬく  
う——とをぬいおもひう——とぬくむつ——とのぬ  
御——ぬいこのぬふきこもあやうもなううれ

——ちひさくあり——ぬ——ほとふ我も物なるぬも  
——てみまわ——ぬうたのち——此御——ぬやと  
みまわ——うれはこえて、此にけりひと——まき  
うわつあ物をうりふは神佛のう——はわらぬをたま  
つはなふんまふのぬひひ物おもをむとすは  
まやわうんをひひははふくてももわたしたる  
程よこふう乃ぬぬのぬおもてよす——とまき下らう  
女房のあひさう——ひとえれ——とぬあけなう  
わわうりふを思ひて人もうみつをこさなりは  
まにぬけぬ——ひひはふれあを——すうとぬみ  
はくうよたまなうむとあらぬさうきてをのりはま



















なうせねあつめおゆるうねふ事を以ふ人これ  
なりひもあやうんやひりふむうお師あさ乃  
も換ようあふうれ事とあけまて世中の物換ふと  
一は志あふにまふよりハ井あふて非言ハ  
あなうまわたうせねるわ太言大物のうなうま  
はうるうひ給師ともよまうりたう大袖云此君  
小事わんまの物の子りんとふうういあめわはま  
来いぬまいあめ人れふいふんとくめて物換する  
こうんちをくれたる人んとあけまて心のほとも  
るゆらんう小事わんまともいふう給座ひくと  
の給てはううううううううの君を六ねうはうく

人もううあなくてみえうううううううう人  
もまいふを給てはうひなうふまうわ給へ物換  
いぬあふ小一給て夜あをていつてふと一給わ  
わのも付まを創のめあまふすち小冬付ぬまや  
まをうういぬまあくおううまひと思てはううへを  
うまういぬまあくおううまひと思てはううへを  
わううはふまもりううを給ていとみくあき師  
さあと思一はうういおううけまううてうう  
はまを給めまうむい給ううやこれ人うも乃給ふ  
うとあやううまをうううう給ううこれ大物  
殿のなくあう給て一人を家の師二条の小方の



清をとうむなわくわくとしつゝなふへーひたち乃  
 ちたのみえなようめいをいとも母ともいひ侍  
 たるをいひなるゆりやれ女君は宮よりいと思ひて  
 おりーまゝ大將殿やまゝつを給ふわく人様は  
 むく人給ひんとてまゐりわめう人なと云とく志く  
 ー給きふやとよ高もいと思ておけーまゝなう  
 えいゝを給ひのわやーまゝにまゝにるなうたうを  
 給はるそく人ゝを給ふる女も高と思ひまゝえうせ  
 るふもやゆなりまゝをいゝをいゝと力あけふふ  
 ふめわとてあうめれと座う乃人たハふきまゝにひ侍  
 げは電光石火もいとあきうーとおひてたはりの

[illegible]



とやうてゑふ——いそぎをもちぬもやわきんと  
まゆまはううにかへふ——ふまひぬふといはきよ  
うふいちはい方をもちてういふ人ふもつふ  
なまふれと思ひまはへきふりといふうむかい  
ふうれはねをけりたふうこきふ——きううこ  
きうわ——てなふのいふ——うまは——きふふを  
るううもいとう——きうてきううとくふへ  
ううまは——むかひにきううむかひ——きふともむかひ  
大言もたふまは——きふたふう大ね殿うもきふて  
むかひ——きふもあはきふてきふうせききわ川乃大ね  
とねき乃女——きふ思ひけたる秋の夕きふ思ひて

むていきたるういふ——うきふたるきふ——思  
ふきふ——うううむかひ——なひう人れきふ——  
ういふむかひ——きふううむかひ——  
きふうううううううううううううううううう  
わきてきふはきふきふきふきふきふきふきふ  
むかひきふううううううううううううううう  
ううはいともきふ——きふある世なまはううきふ  
きふもえきふのめ——きふきふ——うううううう  
なまやうきふきふきふきふきふきふきふきふ  
きふ——きふきふきふきふきふきふきふきふ  
きふきふ——きふきふきふきふきふきふきふ



えきくさくまー又おりふ人わりと幾くも  
なりはあふ事なうまーをわらう後く  
もうんみくろくうー那、那と思ひあまわては  
みるやれ多く小くわういきてゑーうもほくも  
わらうまあそきをこふまーきまてを屋になうれお  
思ひもひてさーつきのゆはわさうーくても静か  
人のいとんがさかくうーながはる病なりわふ家  
う強くーさ哉と思なりさひくふさうーか  
物と思ひわらんかとわうーきまふなり心山  
おめくあげさふぼえて升たわ要ん有様をさう  
しも思ひていまだにわらうがゆるくなつて

うつろ居るくぞうたふりたらひ人よそあゝさんと  
 思——よなはとぞうたふり——人哉思ひてい巻を  
 をも思やそ——女哉もう——と思り——たゞ我を振乃  
 よけぬぞとたわうなゆきなりめりか臨時くおか  
 りわゝ旅のとうふ所まゝくおなひる人——あゝ旅  
 びちふれもくる——きこすをのぼる——あゝ旅を  
 んやとまゝてなくはめりか旅は——のあゝみり  
 あゝぬりか——さよとの旅はへま人うゑな義を  
 んふのほく——さうとさうい何事かあゝのうゑんと  
 ち——くもみふれたまはさうく旅うらばをれはひ  
 あゝいむふかくもりてうら何らん——おぼし







さうものおる乃みんりて人々もいふがふも  
なまに病つけふをいふわうなとも思ひて  
うぬいふさぬりあんなあふとまうめれたるわ  
ちていふやうにうぬのいふううはふぬる  
母をのたはうなふ屋うりもてあさんりあ  
の子をさうなだいとあふぬるをのと思ひけお  
何りさぬりてなぬううぬくうの乃ぬりぬふ  
なとせうもの付様もいひてふれぬむう人々を  
ぬてくわぬるのぬくよせいとふなうぬ御  
やとの人なまなやむいぬくふとてさうい  
たうふあふわあふいぬの君なとらひひてもりわ

ひまうけぬういふあふりくふ部々のみや、れ君  
さうやういふ人と思ふうへはふさばまう  
たふぬくみいぬううううなと倒れぬは  
人をまひぬよつきても人ゆうきぬをき屋まで  
いふ、ぬぬぬぬぬてくわ大ぬりううさ  
まてもあふささ、ぬぬのふさふといふうわあ  
ふやふとおひあふもくきふぬをぬきうう  
うぬき世乃むとぬくともふなぬれうに方を  
あふてもふとくあふぬわさふううなと思ひ  
人よわんよをさうえぬく里、れ院はぬりうぬ  
をぬぬわもひろくぬりぬくひいふきぬうて







はまふてせうおをさまーあーあさまーを  
もろくろ落しうわをふれんりれなと人小冬うれ  
わらわのちとりをてうわりかおもひりぬるすあね  
心ひとばよめいむこいたく思ふきえうち乃佛  
物種ふともな座す小母こをけんはいぬひと所冬  
うち出張みつをいそぎうー忘りー帰りにをも  
すぐさへあねあさーと忍えまうーと思へハ  
かくれぬむんー此りと殿はお美あひたる戸によ  
んとあまう井で物種なき思ひやりになふとあね小  
おーてなようーとう女房はむづかう一也おか正  
へ義や女うなりくちあね屋にあらもあーか

ちやうどふたふたうらんちやとてへてぬへくも  
 屋下くくくくくくくくくくくくくくくくく  
 のふくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ちやとてへてぬへくもくくくくくくくく  
 ちやゆへくくくくくくくくくくくくくくく  
 さくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ちやゆへくくくくくくくくくくくくくくく  
 おもふくくくくくくくくくくくくくくく  
 ちやゆへくくくくくくくくくくくくくくく  
 ちやゆへくくくくくくくくくくくくくくく  
 のちやゆへくくくくくくくくくくくくく







ふんまゆりしうめお事をたぐはうの程も  
人いりうわきりぬほしーものと思やそたわんあ  
みちのを待てなんふりあてもうこれ物はちてゆへ  
あつてはわねへきおわよあめあそてふちいそ  
せんいをーなてうくろこをなうむとあひ  
屋わねうんうけまと思へふ人もあわむんーれ  
かうらへりけーうそそ夕うけよなあまに  
むのひもとくはあふ草むしとみわう結物乃  
ああるよなうりけいそりわをたゆハ秋乃  
天といふうをいとふのひをりそんーけ  
あなうへるまほふきぬのをとなひふふさきりひ

ーてめものけうーうわをそそあなたり  
うあなわんやれゆえがーてふまわあなう  
あわきりいたまうとひたまうのけうた乃  
中將のあときゆならわあわれわきやまう  
うわうわめふもお思ふ人はあてうくゆーを  
あくまゆなうーあといとあーくのあふ  
えなめなまてのえきなるうめあもくらわ  
あわたちてはなう地なるあそかーふあふ  
こまけなるめあはもくらあうあのかゆ  
ふはあなくんうくのあわあれいそてふわ  
ふもめつーーむんあふふあてふ



路りん城うくらひとわてわと思——座うり座  
うしむをいふも思ふをうんまゝとにうろを  
わむ人を我うさうさう人あやれとうたい物  
うか人れんうと田ふきてふん乃けうたのうれ  
か様をいふさういふぬ物り思ふしてつとひん  
なまじほひよなりりむほうたれわをえをなく  
——と思なりうろさういふちうさぶ物よあり  
ちわうううわわうさうあわをさうやうなるう  
いをいふ人さうられ中りわむむりわうらて  
わうくみひうぬう——祿覚う地りばきく  
なまをいふいははきもあうやふとありふり

いふハな城つふあ——例うり——れり殿をさ——に  
なうひてわきいあり——ふもあや——姫高うふい  
何なうらわうを給けまた人々月るうとてあ  
う殿ようちとけて物持すふかとあわうわさうれ  
あといふあや——うひふとさうはまをいふ  
うきあ思ふけぬり——わわら——てなとあくひ  
うかふよさあ——うろとのろりんあわを  
うあうああうい——わをいふすれうらわ  
うきああういふううとてふあうあうのうみやう  
うきあういふういふうあわのわも——うひはあ  
うわあういふういふういふのうあうあうとてうあ







殿并りすうこめてこ人型てあわなとーくわ  
みつきてうけあまとりうくふりーこまうよれ  
けりと思ふみなもおもてりけりこのまふわてうら  
なつくりけりいけりおとあひふ人出まわ  
人志ぬんよをなとてえはまふ申くたぬ人再  
はきふりーつむりうのくまふふふて  
まふぬふりふなりんこまめぬふなりんこまわ  
ほりをりめられけりふりうのくまふ人君ゆもいひ  
つこふけりーふちてうとおひりーけり  
内も換ふつきてもあま乃思ふえさきこまふ  
あまなと思ふく出まてなんくのみけりまふえ

うきぬなふけりーちわうふをまもぬあひまふえ  
めあこつふあえく乃人ききてんちなのふけり  
物うきぬなふけりーちわあひーまふりーふけり  
いふーてふあふまふりけりまてもあり  
ふりんなんふりーふけりまふりーふけり人けり  
なとてふりふけりまてふりまふり乃ふり  
まふと思ふはまてまふひきふふりふけり  
のふりなふけりまふりまふりまふり  
ふけりまふりまふりふけりまふり  
なくひあふけりまふりまふり  
つふふりまふりまふり



じえりし人ゆき思ひしにけり—あふへ義とたふ  
 けまひつてあふりわも人よゝ急義のひへき物と  
 なりひねらんをあはう—けり—あふちもひと  
 なぬめ—う—む—ちみまが—ききりひの—  
 たると—し人うみまふりしけりみへあへきけり  
 ふめりけりあ—うもけりうたれせやとも思ひ  
 けり—あふちあふり—あふちあふり—あふちあふり—  
 うたふち—あふちあふり—あふちあふり—あふちあふり—  
 あや—う—あふちあふり—あふちあふり—あふちあふり—  
 山のふち—あふちあふり—あふちあふり—あふちあふり—  
 ありあふち—あふちあふり—あふちあふり—あふちあふり—

思ふ人ものやうれうらるる——  
 こぢり——  
 りれひとゆわなを思ひ出さるあや——  
 うわき地きわともてはくくも思はずをため  
 ぬみ音りをろふ乃物うけとひらりし  
 わりとそよはとてまねみす又ゆくゑも  
 志しき——  
 ひとわくら踏とうや



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the right page of an open book. The script is dense and flowing, characteristic of early modern handwriting. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the left page of an open book. The script is dense and flowing, characteristic of early modern handwriting. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.



